

第5章 地域の現状・特徴

本計画においては、小地域、地区、コミセンブロックの各々の生活福祉圏の単位によって、地域の考え方を示してきました。地域福祉活動は、それぞれの生活福祉圏の中で様々な形態により行われています。

本章では、生活福祉圏の中で最も大きな地域単位であるコミセンブロックごとに、地域の人口や世帯状況、高齢化率等の現状、主な地域活動団体の活動状況、さらに、それぞれのブロックで提起された課題となる意見など、地域それぞれの現状と課題についてまとめて示しています。

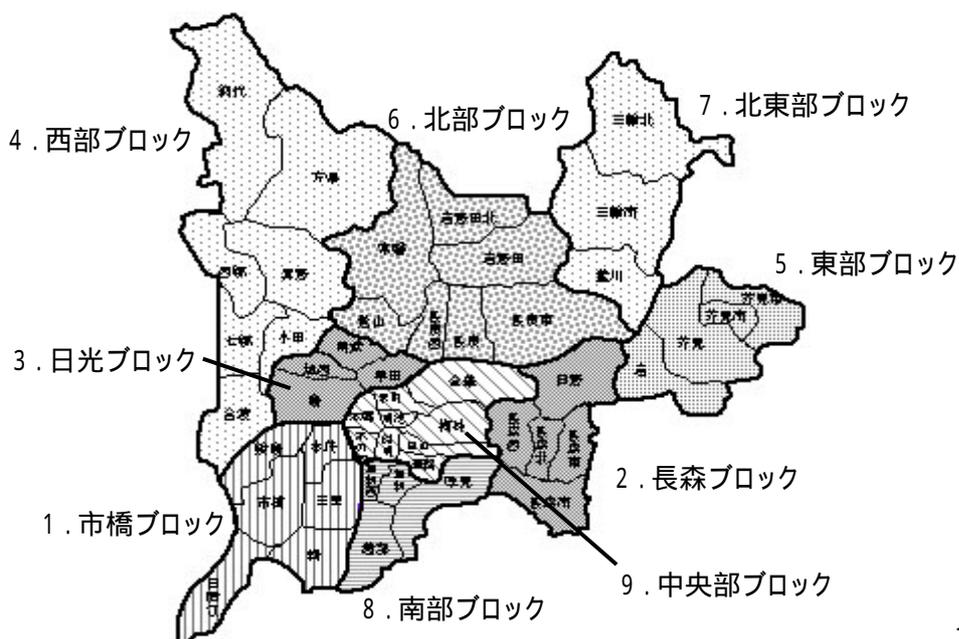
(コミセンブロックの一覧)

本計画において、コミセンブロックは以下に示すとおり9ブロックに分かれています。現在、市内には市橋、長森、日光、西部、東部、北部、南部にそれぞれ7つのコミュニティセンターがあり、新たに北東部においてコミュニティセンターの建設が予定されています。

また、中央部にはコミュニティセンターがなく、今後の課題となっています。

表5 - 1 9つのコミセンブロック

1. 市橋ブロック	2. 長森ブロック	3. 日光ブロック
4. 西部ブロック	5. 東部ブロック	6. 北部ブロック
7. 北東部ブロック	8. 南部ブロック	9. 中央部ブロック



(地域における取り組みに向けて)

地域が抱える生活課題は、地区や小地域によって様々です。そのため、それぞれの地域の課題や実情に合わせて、地域福祉推進に向けた取り組みを行っていくことが大切です。

今後、より身近な地域の中での生活課題について、地域住民自らが意識し、解決に向けた取り組みを考えていくことが望めます。本章は、地域の特徴を整理し、地域住民による取り組みのためのきっかけの提供を目的とするものです。

地域における取り組みとして、以下のようなものが期待されます。

(小地域や地区における課題や活動状況の把握)

本章では、各コミセンブロック単位で地域の特徴等について整理しています。しかし、主な地域活動団体の活動範囲は地区であるなど、地域の課題解決にあたっては、より小さな地域単位においてその特性を把握することが重要です。

コミセンブロック内でも、それぞれの小地域や地区における課題について、同じ地域住民自身が討論の機会を持ち、共通認識として取りまとめていくことが望めます。

(地域に根ざした多様な活動主体の把握、連携)

本章で挙げた地域活動団体の他にも、地域では様々な活動団体によって多様な活動が展開されています。また、地域に根ざした独自の活動を展開しているボランティアやNPOもあります。

今後は、それぞれの地域においてどんな活動主体があり、どのように活動が展開されているのかについて、共通認識として理解するための取り組みが望めます。

(地域ごとの方向性と行政支援の展開)

小地域や地区で積み上げられた地域特性や課題について、コミセンブロックなどでの他地区を交えた様々な角度からの意見交換により、その地域のめざす方向性を明確にしていくことが期待されます。

また、そのために必要な行政支援のあり方についても、地域住民との協働により計画の推進に反映させていくことが大切です。

(本章の構成)

本章では、上記の9つのコミセンブロックごとに、次のように当該ブロックの特徴を整理しています。

1) 基本データ

当該ブロックの人口に関する指標として、以下のとおり整理しています。
(資料：岐阜市統計書より)

- ・ 人口
- ・ 世帯数
- ・ 平均世帯人員(1世帯あたりの人数)
- ・ 高齢化率 (人口に占める65歳以上人口の割合)
- ・ 0歳~4歳児の割合(年齢別人口から)

さらに、地区単位ごとに高齢化率を整理しています。

ここで、「市全体に対する特化」とは、市全体での指標を1.00とした時の、当該ブロックにおける指標の比率を示しています。

2) ブロックの特徴

当該ブロックにおいて、全体として特徴的な点について、その概況を整理しています。

3) 地域活動の状況

地域には、市民活動団体、NPO、ボランティアをはじめ、多くの活動団体があります。

ここでは、各ブロックに共通する代表的な地域活動団体について、その主な活動を整理しています。

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

本計画策定の取り組みの中で、その地域の生活課題について住民と直接討論する機会として、各コミセンブロックにおいて地域福祉コミュニティ会議を開催してきました。

ここでは、それぞれの地域福祉コミュニティ会議において、出席者により提起された地域の生活課題や意見について、「地域福祉コミュニティ会議からの提言」として整理しています。

1. 市橋ブロック

1) 基本データ

人 口	; 63,075 人
市全体に占める割合	15.7%
世帯数	; 23,720 世帯
市全体に占める割合	15.8%
平均世帯人員	; 2.66 人/世帯
市全体に対する特化	0.99
高齢化率	; 15.6%
市全体に対する特化	0.80
0歳児～4歳児の割合	; 5.7%
市全体に対する特化	1.19

図 5 - 1 年齢別人口

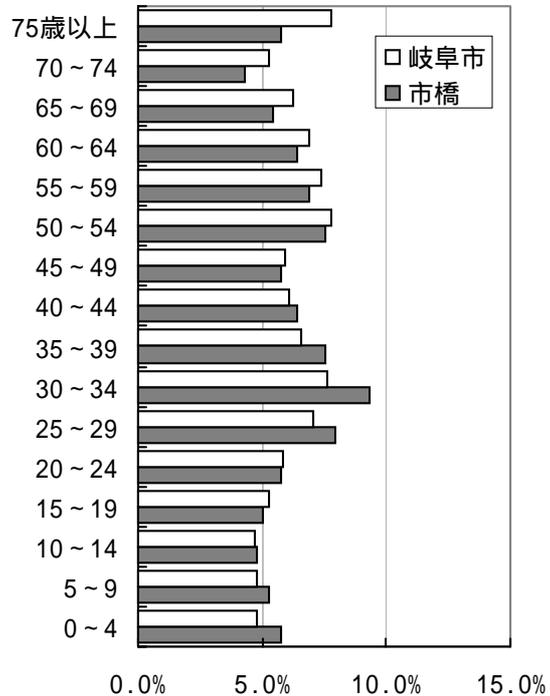
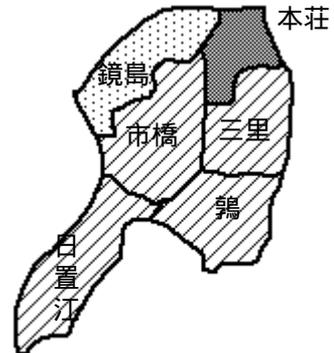


図 5 - 2 地区別高齢化率

2) ブロックの特徴

本市の南西端にあり、県庁をはじめとした県関係の中核機能が集積した地区です。また、環状線沿いを中心にして、大型店舗等商業施設も立地しています。

- 高齢化率 (65歳以上)
-  15%未満
 -  15%以上 20%未満
 -  20%以上 25%未満
 -  25%以上



市全体の 15.7%の人口集積があり、市内で最も人口が増えつつある地域です。高齢化の状況は、全体では 15.6%ですが、地区による格差が大きく、特に本荘地区など旧来の市街地では 20%を上回る高齢化率となっています。また 0歳児～4歳児の割合は 5.7%であり、市内で最も高い比率となっており、新婚世帯や子育てファミリー世帯が多い地域となっています。

平均世帯人員は、2.66 人/世帯であり、本市の平均的な水準となっていますが、アパート、マンションの増加に伴い、核家族が増えています。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】

校区市民体育祭、校区文化祭
三世代交流促進事業

敬老会・新成人を祝い励ます会
社会を明るくする運動

【見守り活動など】

境川中学生徒児童を育てる会

【その他】

自主防災訓練

・社会福祉協議会支部

ひとり暮らし高齢者のつどい
高齢者介護予防教室
歩け歩け大会
ふれあい餅つき会
すこやか教室
児童による高齢者慰問
ひとり暮らしおよびねたきり、入院中高齢者への慰問

幼児と高齢者ふれあい事業
ふれあい・いきいきサロン
介護研修会
子育て講習会
三世代交流会

・老人クラブ

【交流事業など】

ふれあい・いきいきサロン
校区ふれあいまつり
保育園との交流(運動会、七夕まつりなど)
正月会員との語り合い、婦人部との語り合い

校区福祉大会
三世代交流促進事業

【人材育成など】

高齢者健康スポーツ活動促進指導員養成講座
ヤング・オールドリーダー研修会

【その他】

友愛チーム・ふれあい活動

・青少年育成市民会議

【交流事業など】

親子ふれあい教室
三世代交流事業

青年と語る会

【子育て支援など】

子育てを考える講演会

親子自主グループ活動支援

【その他】

家庭の日推進大会
社会を明るくする運動

人権同和研究

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

市橋コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動

社会福祉協議会支部の役員が任期で交代するときなど、活動・運営について引き継ぎを円滑に行える仕組みづくりが必要です。

移動の確保

高齢者が集う場へ行くまでの移動手段の問題が大きく、巡回できる交通手段の確保を検討していく必要があります。

(例えば、自動車学校の送迎バスを利用するシステムを考えたらどうか。)

地域の企業も含めた中で、助け合いによる移動支援を検討する必要があります。

生活弱者に対する支援

児童虐待などの問題や被生活保護者に対する地域での支援を考えた場合、どこまで情報開示が必要なのか、考えていく必要があります。

ひとり暮らしになってしまった人、寝たきりになってしまった人についての情報がより早く民生委員・児童委員に伝わるしくみが必要です。

ひとり親の会を作って相談役を置いても、相談に来る人は少なく、そうしたことを他人に知られたくない人に対して支援する人材が必要です。

援助が必要であっても「助けてほしい」と言えない人の問題が大きく、援助や助け合いのあり方を考えていく必要があります。

ボランティア等活動を行おうとしても、受け手(対象者)の把握が困難であるし、行政から情報を得られないケースがあります。

地域での助け合い

元気な高齢者が集まる場を確保していくことが必要です。

エコマネー(地域通貨)、時間の貸し借りなど制度化したしくみについての情報提供が望まれます。

ボランティア保険や自治会保険の運用など、活動する人への配慮についての相談や指導が求められます。

若い世代が多いため少子高齢化に対する危機意識がまだ薄く、意識啓発を図る必要があります。

アパートやマンションが急増する中で、核家族世帯やひとり暮らしが多いアパート住民の地域コミュニティ活動への参加を促進し、つながりをつくる必要があります。

自主防災

自主防災組織の中で災害時の緊急連絡網があっても、自治会の未加入者などは把握できないという問題があります。

自主防災組織について、大規模災害時においても実際に機能するためのしくみが必要であり、そのしくみが機能することが重要です。

ブロック割り

同じ地区でも活動団体ごとにブロックの割り方が違うことがあり、連携がとりにくいという問題があります。

2. 長森ブロック

1) 基本データ

人 口	; 42,197 人
市全体に占める割合	10.5%
世帯数	; 15,660 世帯
市全体に占める割合	10.4%
平均世帯人員	; 2.69 人/世帯
市全体に対する特化	1.01
高齢化率	; 17.5%
市全体に対する特化	0.91
0 歳児～4 歳児の割合	; 5.1%
市全体に対する特化	1.07

図 5 - 3 年齢別人口

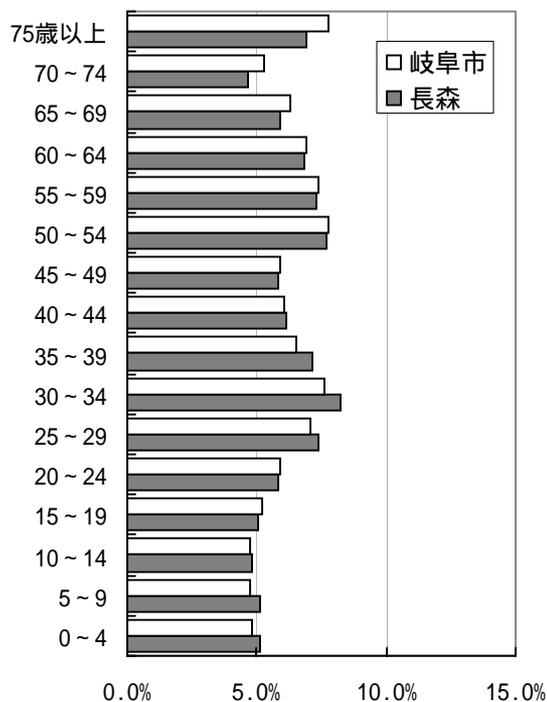
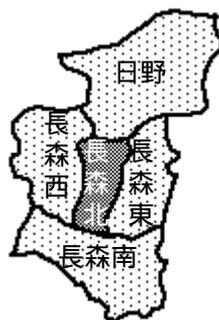
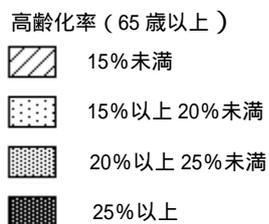


図 5 - 4 地区別高齢化率



2) ブロックの特徴

本市の南東部にあり、農地が比較的残る住宅地区です。

市全体の 10.5% の人口集積があります。旧来の市街地である長森北は比較的高い高齢化率ですが、他の地区は、比較的高齢化率が低い地区です。

また 0 歳～4 歳児の割合は、長森北以外は高く、比較的若い世代の世帯が多い傾向がみられます。

平均世帯人員は、市平均と同程度です。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】	
校区市民運動会、地区文化祭 三世代交流促進事業 各種スポーツ大会（ミニテニス等） 敬老会	新成人を祝い励ます会 社会を明るくする運動 歩け歩け大会
【その他】	
校区自主防災訓練 金婚祝	独居高齢者のつどい協力

・社会福祉協議会支部

施設との地域交流 高齢者介護予防教室 敬老会、金婚祝 ひとり暮らしおよびねたきり高齢者への慰問（含：見守り研修） ふれあい訪問事業 年末福祉見舞い配布 こどもフェスティバル	ひとり暮らし高齢者のつどい 高齢者へ花苗配布 老人フェスティバル ふれあいいいききサロン 親子ふれあい教室
--	---

・老人クラブ

【交流事業など】	
校区福祉大会 三世代交流事業 保育園ふれあい（運動会・その他） ふれあい・いきいきサロン日曜喫茶室開設	校区市民体育祭、校区文化祭 ゲートボール大会 老人ホーム交流花見会
【見守り活動など】	
高齢者世帯の実態把握 友愛チーム・ふれあい活動	子どもフェスティバル
【その他】	
ヤング・オールドリーダー会議 高齢者健康スポーツ活動促進指導者養成講座	男の料理教室、さわやか料理教室

・青少年育成市民会議

【交流事業など】	
親子ふれあい教室 三世代交流事業 社会を明るくする運動	あいさつ運動 新成人との交流会
【子育て支援など】	
子育て講演会 親子自主グループ活動支援	生徒・児童を育てる協議会
【その他】	
特色ある活動推進事業	地域環境調査

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

長森コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動

小地域での活動の積み重ねから広げていくことが重要です。

地区での様々な取り組みをどのようにつないでいくか、が問題です。

小地域での仲良しグループの活動の情報を把握する必要があります。

地域のコミュニティ

ふれあいの場を作ることによって、地域のコミュニティの復活を目指していくことが重要です。

あれもこれもと広げるのではなく、「小さな福祉」を地域で共に考えていくことも重要です。

ふれあい・いきいきサロン

ふれあい・いきいきサロンについて、「やってあげている」という参加意識を変えていくことが必要です。

参加者が固定化しており、広く参加者を募っていくことが重要です。

具体的な活動内容の積み重ねによって、活動を活性化していくことが重要です。

災害時の支援

ひとり暮らし高齢者が、災害時や緊急時に周囲へどのように助けを求めるか、連絡、伝達の仕組みづくりが必要です。

計画の推進・周知

住民参画による計画づくり推進をめざすのなら、地区(小学校区)単位で計画の周知を図ることが必要です。

3. 日光ブロック

1) 基本データ

人 口	; 39,031 人
市全体に占める割合	9.7%
世帯数	; 14,755 世帯
市全体に占める割合	9.8%
平均世帯人員	; 2.65 人/世帯
市全体に対する特化	0.99
高齢化率	; 17.2%
市全体に対する特化	0.89
0 歳児～4 歳児の割合	; 5.6%
市全体に対する特化	1.18

図 5 - 5 年齢別人口

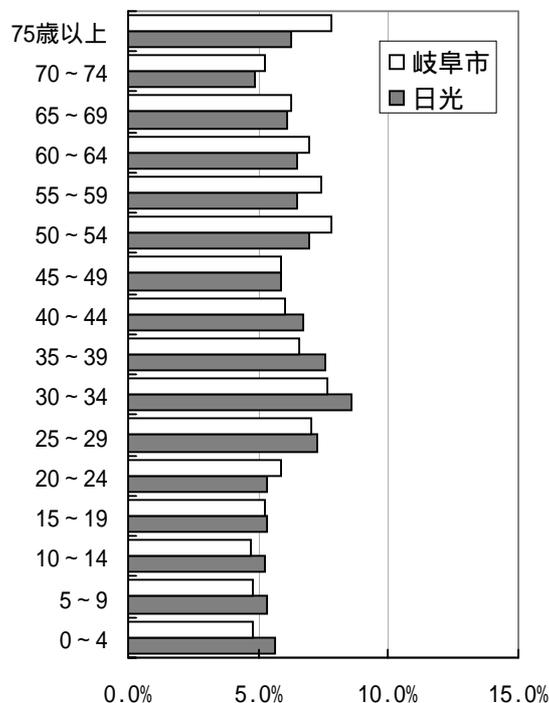
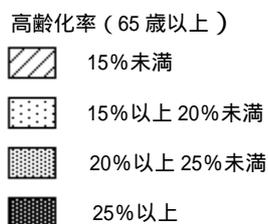


図 5 - 6 地区別高齢化率



2) ブロックの特徴

本市の長良川と伊自良川に挟まれた地域であり、島・早田地区の忠節橋北方付近は、旧来からの中心商業地ですが、他の地区は、土地区画整理事業により整備された住宅地です。また環状線沿いには、大型店舗や飲食店等が立地する商業地域となっています。

市全体の 9.7% の人口集積がありますが、今後、島地区への人口集積が予想されます。高齢化の状況は、17.2% であり、ブロック内での偏りは少なくなっています。0 歳児～4 歳児の割合は 5.6% と比較的高く、特に島地区は、7.1% と非常に高くなっており、比較的若い世代の世帯が多く、今後も増えることが予想されます。

平均世帯人員は、市平均と同程度です。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】

地区大運動会、地区文化祭
敬老会・新成人を祝い励ます会

三世代交流事業
健康散歩道ウォーキング大会

【見守り活動など】

みょうがぼち作り（ひとり暮らし高齢者宅へ配布）

【人権擁護など】

人権同和研修会

【その他】

防災等時事問題の研修会

・社会福祉協議会支部

三者合同ふれあい会（ひとり暮らし高齢者・身体障害者・ひとり親家庭）
ひとり暮らし高齢者への慰問（お正月用品）
ひとり暮らし高齢者のつどい
ふれあいメール（ひとり暮らし高齢者に小学生から年賀状を出す）
ねたきり高齢者の介護者への慰問

介護予防教室
小学生から年賀状を出す
ふれあい・いきいきサロン

・老人クラブ

【交流事業など】

ふれあい・いきいきサロン
三世代交流事業
保育園児とのふれあい（七夕祭り）参加

校区福祉大会

【人材育成など】

ヤング・オールドリーダー研修会

【見守り活動など】

友愛チーム・ふれあい事業

・青少年育成市民会議

【交流事業など】

親子ふれあい教室
三世代交流事業

【子育て支援など】

子育て講座
親子自主グループ活動支援

子どもフェスティバル

【その他】

夢づくりふれあい事業
学校週5日制（わくわくサタデー）

4) 地域福祉コミュニティ会議からの課題

日光コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

コミュニティセンターの機能

コミュニティセンターに置くコーディネーターのあり方や役割について、十分検討する必要があります。

コミュニティセンターにおける拠点機能の形成については、一步一步、段階的に取り組んでいくことが重要です。

行政の窓口を一本化して、サービスをわかりやすい形で提供して欲しい。あわせて、介護問題や教育問題など、縦割りの行政と地域とのつながりを整理する必要があります。

行政職員も率先して地域活動に参加して、活動を盛り上げる必要があります。

地域活動団体への参加

地域活動団体の会費について、地区によって千差万別であり、実態を整理する必要があります。

この地域は若い世代が多く、自治会などの地域活動団体への加入に対して魅力をつくっていくことが求められます。

自治会など地域活動団体の役員の担い手を増やしていく必要があります。

バリアフリーについては、目につきにくいですが、日常的に使われる所の改善が遅れており、今後考えていく必要があります。

ふれあい・いきいきサロン

サロン活動の企画・テーマが行き詰まるのが今後懸念され、活動内容についても相談できる場が必要です。

開催日について、日曜日などの開催も今後検討していく必要があります。

地域での相談

虐待など問題のある家庭に対して、どこまで踏み込んでいけるのか、が難しく、相談機能の整備が必要です。

学生マンションの駐車場における騒音問題など、日常のちょっとした問題に対しても対応してくれる相談窓口が必要です。

地域での助け合い

向こう三軒両隣などの日常的なコミュニティに立ち帰っていくことが必要です。

老人クラブなど地域活動団体の発表の場について、画一的なやり方ではなく地域の特性を生かした中で、そのあり方を見直す必要があります。

介助が必要な高齢者に対する支援を地域で考えていく必要があります。

災害時の助け合いについて、若い人の関心を喚起する必要があります。

地域活動団体の連携

民生委員・児童委員の守秘義務、個人のプライバシー問題と、ひとり暮らし高齢者などへの地域での助け合いとの間で、円滑に活動できるように調整が必要です。

高齢者や体が不自由になった人が地域コミュニティから排除される場合があり、助け合いや社会参加の意識改善を図る必要があります。

4. 西部ブロック

1) 基本データ

人 口	; 46,633 人
市全体に占める割合	11.6%
世帯数	; 16,175 世帯
市全体に占める割合	10.8%
平均世帯人員	; 2.88 人/世帯
市全体に対する特化	1.08
高齢化率	; 16.6%
市全体に対する特化	0.86
0歳児～4歳児の割合	; 5.5%
市全体に対する特化	1.15

図5 - 7 年齢別人口

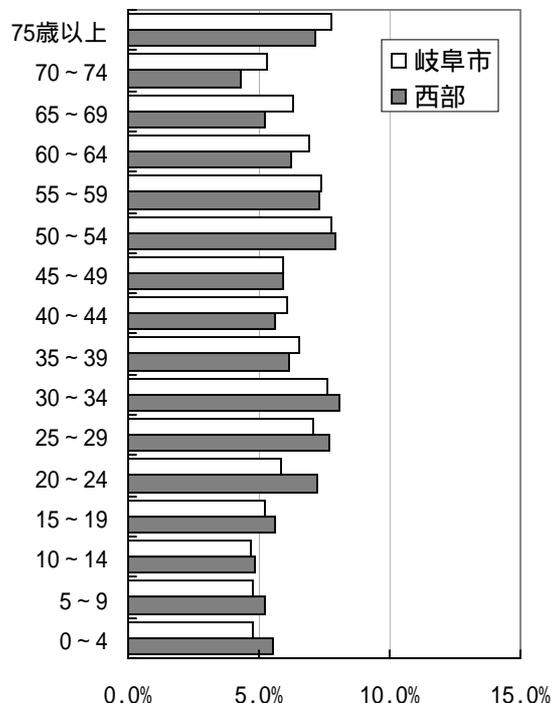


図5 - 8 地区別高齢化率

高齢化率 (65歳以上)

- 15%未満
- 15%以上 20%未満
- 20%以上 25%未満
- 25%以上



2) ブロックの特徴

本市の北西端にあり、農地の多い地域です。また、岐阜大学が立地しています。

市全体の11.6%の人口集積があります。高齢化の状況は、16.6%ですが、北部の旧来の集落を中心とした地区で高齢化率が高く、特に網代地区は、高齢化率が25%を上回っています。

0歳～4歳児の割合は合渡、七郷、西郷地区が高くブロック全体で5.5%であり、比較的若い世代の世帯が多くなっています。

平均世帯人員は、市平均と同程度です。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】	
校区市民運動会	敬老会・新成人を祝い励ます会
三世代交流事業	住民福祉活動
敬老会	歩け歩け大会
【見守り活動など】	
寝たきり老人慰問	福祉年賀
【人権擁護など】	
地域人権・同和問題研究会	
【その他】	
介護・予防教室参加	健康づくり講演会
自主防災訓練	

・社会福祉協議会支部

一人暮らし高齢者と介護家族との福祉懇談会	
介護予防教室	福祉年賀
ふれあい・いきいきサロン	福祉研修会
ひとり暮らしおよびねたきり高齢者への慰問	
年末ひとり暮らし高齢者お見舞い	

・老人クラブ

【交流事業など】	
ふれあい・いきいきサロン	校区福祉大会
児童館まつり	三世代交流促進事業
ペタンク大会	ゲートボール大会
保育所クリスマス会	高齢者体育大会
ヤング・オールドリーダー会議	
【その他】	
友愛チーム・ふれあい活動	高齢者世帯実態把握
ふれあい花壇	

・青少年育成市民会議

【交流事業など】	
親子ふれあい教室	三世代交流事業
新成人を祝い励ます会	ふれあい広場
盆踊り大会	ラジオ体操
【子育て支援など】	
子育て講座	子どもフェスティバル
親子自主グループ活動支援	
【その他】	
人権同和研修会	夢づくりふれあい事業

4) 地域福祉コミュニティ会議から提言

西部コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動

高齢者の健康づくり活動の場について、安定した確保が必要です。

高齢者個人の価値観を尊重し、生活スタイルを選択できる環境づくりが必要です。

地域自主防災においても、プライバシーの保護に配慮する必要があります。

様々な地域活動について、行事的な活動から日常的な活動へとつなげていくことが重要です。

“してもらう”活動から“自分たちがする”活動へと発展していくことが重要です。

交流活動

コミュニティセンターについて子どもの利用が少なく、小学生や中学生との交流事業を取り入れて行く必要があります。

次世代交流の集いについて、高齢者が一人でも気軽に参加できる環境づくりが望まれます。

在住外国人が増えており、外国人との交流の持ち方を考える必要があります。

障害児との交流は、子ども同士では自然にできており、子ども会などへの参加をしてもらうことが重要です。

ふれあい・いきいきサロン活動の充実を図る必要があります。

ものと心のバリアフリー

岐阜大学病院が移転されるが、地域内の南北の公共交通路線がなく、交通の確保が必要です。

ふれあい・いきいきサロンなどの集りで、車いすを利用する人など障害のある人への介助の充実が必要です。

コミュニティセンターにエレベーターがなく、早期設置が望まれます。

高齢者が買い物や病院へ行く、あるいは気軽に外出できるように、交通手段・移動手段を確保することが必要です。

支援・助け合い

高齢者の生きがい活動として、高齢者の散策を行っているが、犬の散歩などによる糞の放置など、マナーの普及啓発が必要です。

ひとり暮らし高齢者だけでなく、昼間みのひとり暮らし高齢者に対しての支援を考えていく必要があります。

児童虐待などについては、民生委員・児童委員と学校との連携ができており、これを維持していくことが必要です。

地域の在宅介護支援センターで提供しているサービスを周知することが必要です。

5. 東部ブロック

1) 基本データ

人 口	；24,907 人
市全体に占める割合	6.2%
世帯数	；8,658 世帯
市全体に占める割合	5.8%
平均世帯人員	；2.88 人/世帯
市全体に対する特化	1.07
高齢化率	；19.3%
市全体に対する特化	1.00
0 歳児～4 歳児の割合	；4.5%
市全体に対する特化	0.93

図 5 - 9 年齢別人口

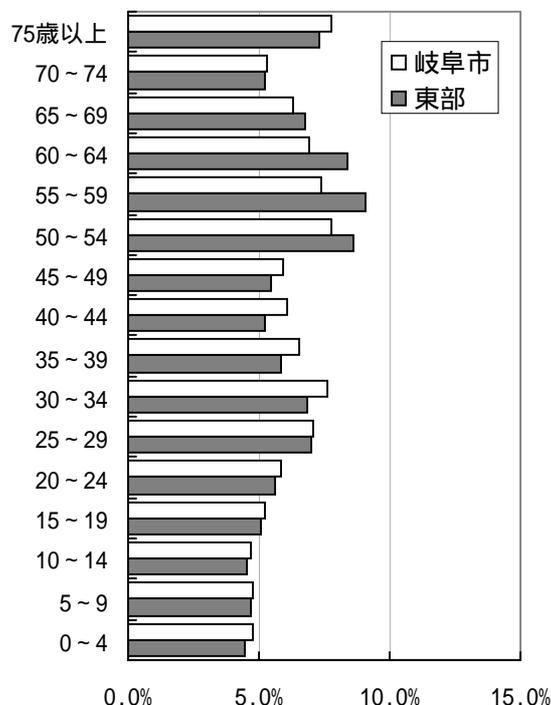
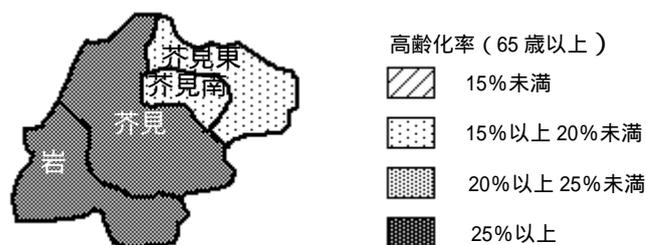


図 5 - 10 地区別高齢化率



2) ブロックの特徴

本市の東端にあり、各務原市と関市に面しています。大規模住宅団地が数多く集積しており、これらの団地は、入居時期が同じである比較的同年代の世帯が多い傾向があります。また、交通機関等の事情により、本市の中心市街地までの移動時間が比較的にかかる地域です。

市全体の 6.2%の人口集積があります。高齢化の状況は 19.3%、0 歳～4 歳児の割合は 4.5%と市平均と同程度です。

平均世帯人員は、2.88 人 / 世帯で市平均と比べて高い地域です。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】

いきいきふれあいフェスティバル 敬老会・新成人を祝い励ます会	三世代交流促進事業 敬老会
-----------------------------------	------------------

・社会福祉協議会支部

福祉施設慰問 ねたきり高齢者等介護者懇談会 福祉連絡合同会議 身体障害者・知的障害者のつどい 地域住民と子供とのふれあう会 福祉講演会	ふれあい・いきいきサロン ひとり暮らし高齢者のつどい
--	-------------------------------

・老人クラブ

【交流事業など】

ふれあい・いきいきサロン 三世代交流事業	校区福祉大会
-------------------------	--------

【その他】

友愛チーム・ふれあい活動	高齢者家庭訪問実態調査
--------------	-------------

・青少年育成市民会議

【交流事業など】

親子ふれあい教室 三世代交流事業 社会を明るくする運動	校区福祉大会 新成人を祝い励ます会
-----------------------------------	----------------------

【子育て支援など】

子育て講座 親子自主グループ活動支援	子どもフェスティバル
-----------------------	------------

【その他】

夢づくりふれあい事業

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

東部コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動団体の活動

様々な地域活動団体がそれぞれに事業計画を作って活動していますが、近い目的の活動については、協力し合って活動していくことが重要です。

老人クラブなどの地域活動の企画運営について、アドバイスしてくれる人が望まれます。

老人クラブなど地域活動団体への加入について、メリットを広報、周知する必要があります。

地域行事への参加に対する、効果的な呼びかけ方を検討する必要があります。

男性高齢者の地域活動への参加が少なく、老人クラブなど地域活動団体との連携などにより、参加を呼びかけていくことが必要です。

地域で活動している様々な活動団体の役割、ボランティア活動の内容などを周知していくことが必要です。

各種地域活動団体の研修会や交流会を福祉の面からも行っていくことが求められ、そのためには、福祉に関する知識を有する人などの人材の確保が必要です。

4分の1が市営住宅の住民である地区もあり、こうした地区における自治会など地域活動団体への加入率が低く、これらの未加入者への情報提供の方法を考える必要があります。

ボランティア活動

地域にどんなボランティアが活動しているのか、わからないことが多く、地域でのボランティア活動の情報提供が求められます。

行われているボランティア活動の内容や様子が、地域住民へ情報として伝わるようにすることが必要です。

助けてくれた人に「ありがとう」とちょっとした感謝をあらわすことも大切で、支援を受ける側への啓発も必要です。

市全体を所管するボランティアセンターでは、対象が広すぎる面があります。もっと活動しやすい地域に密着した地区レベルでのコーディネートが求められます。

コーディネーターの役割は、調整役のみでなく、地域のボランティア活動などに対する将来的なビジョンを持つことが求められます。

コミュニティセンターの中にボランティアの溜まり場（サロン）となる場を作っていくことが求められます。

ボランティア意欲のある人を、具体的な活動へつなげる仕組みづくりが必要です。

生活にゆとりがない人でも、ちょっとした参加ができるような、ボランティア活動のあり方を検討する必要があります。

小地域活動

小地域の活動に対して、コミセンでの拠点から小地域に行き、活動を支援する、といった取り組みが必要です。

個人宅を開放したサロン活動が行われており、こうした自主的な活動を広げていくことが重要です。

地域での様々な交流会やサロン活動に対して、何をフォローしていくのが求められます。

隣近所づきあいからの助け合いと、ボランティア活動や福祉活動をつなぐ関係づくりが必要です。

コミュニティセンターの拠点機能

市民相談などは、市役所まで行くには遠く、コミュニティセンターで、そうした相談が受けられる機能が求められます。

地域での子どもとのふれあい活動により、子どもの親の世代を含めた三世代交流も生まれ、さらに、地域でのあいさつなどのコミュニケーションが円滑になるため、こうした活動を広めていくことが重要です。

6. 北部ブロック

1) 基本データ

人 口	; 65,307 人
市全体に占める割合	16.3%
世帯数	; 24,205 世帯
市全体に占める割合	16.1%
平均世帯人員	; 2.70 人/世帯
市全体に対する特化	1.01
高齢化率	; 19.8%
市全体に対する特化	1.03
0 歳児～4 歳児の割合	; 4.7%
市全体に対する特化	0.98

図 5 - 11 年齢別人口

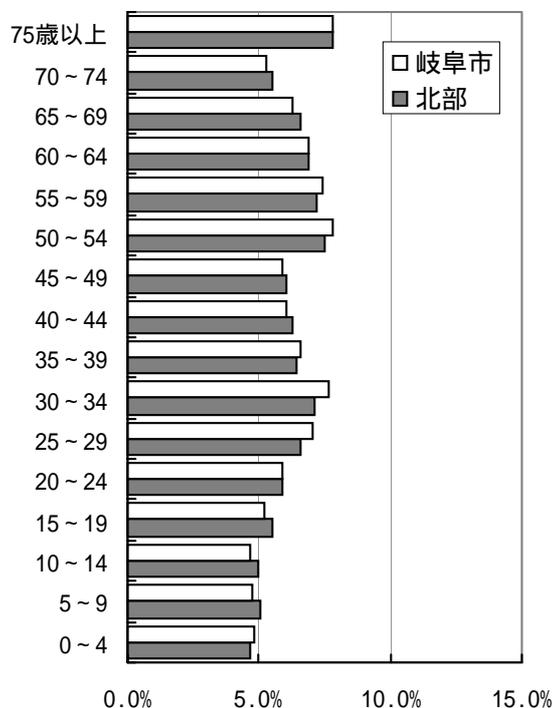
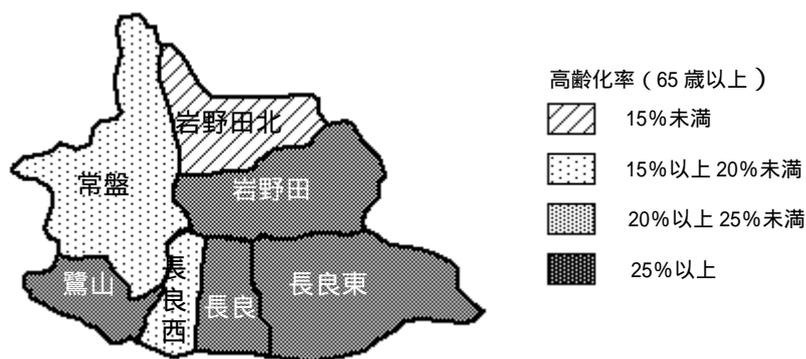


図 5 - 12 地区別高齢化率



2) ブロックの特徴

本市の北部、金華山の北にあり、長良橋北詰からの国道 256 号沿線付近は、旧来からの中心商業地ですが、他の地区は、土地区画整理事業等により整備された住宅地です。また最近、マンション等の建設も目立ちます。

市全体の 16.3% の人口集積があり、最も人口の多いブロックです。高齢化率の状況は、19.8% と比較的高いですが、北部の岩野田北は、15% 未満となっています。0 歳～4 歳児の割合は 4.7% と市平均と同程度ですが、岩野田北は 6.0% と高く、比較的若い世代の世帯が多くなっています。

平均世帯人員は、2.70 人 / 世帯で市平均と同程度です。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】	
校区市民運動会、校区文化祭 新成人を祝い励ます会	敬老会
【見守り活動など】	
友愛チーム・ふれあい活動	

・社会福祉協議会支部

親子ふれあい教室 独居老人の集い 介護予防教室 献血 「1日福祉デイ」 施設慰問(清流圏) ねたきりおよび痴呆高齢者への慰問 ひとり暮らしおよびねたきり高齢者への慰問 おせち料理配布(ひとり暮らし高齢者対象) 母子家庭新入学児童祝	ふれあい・いきいきサロン 農夫たすけあい慰問 長寿表彰事業 福祉バザー 高齢者特別記念日の贈呈
--	---

・老人クラブ

【交流事業など】	
岐阜福祉大会 三世代交流事業	校区運動会、校区文化祭
【見守り活動など】	
高齢者世帯の実態把握 友愛チーム・ふれあい活動	子どもフェスティバル
【その他】	
一日福祉デー 北部老連高齢者健康リーダー養成	ヤング・オールドリーダー会議 老人大学

・青少年育成市民会議

【交流事業など】	
親子ふれあい教室 新成人を祝い励ます会	三世代交流事業
【子育て支援など】	
子育て講座 校区児童生徒が育つ連絡協議会	子どもフェスティバル 親子自主グループ活動支援
【その他】	
夢づくりふれあい事業	

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

北部コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動

ボランティア活動と、地域の活動との結びつきを図る必要があります。

ボランティア活動も人手不足や活動資金不足により活動が不十分になってしまうので、それを補う仕組みづくりを検討することが必要です。

婦人会など地域活動団体の参加が減少しており、活動の活性化が必要です。

公民館の有料化による負担について、その対策を考えていく必要があります。

歩くことのできない高齢者、外出することのできない高齢者など、外出できないけど、話をしたい、参加したい気持ちのある人に対するの援助や支援を考えていく必要があります。

地域における子どもの活動(スポーツ少年団やお茶などの文化活動、ボランティア活動など)と自治会など地域活動団体の支援や連携が重要です。

地域における福祉の普及

若い人に、地域への関心を持たせるための方法を検討する必要があります。

高齢者福祉や地域福祉の考え方をどのように地域に浸透させ、市民との協働を図るのかについての方法を検討する必要があります。

障害のある人の見守り

障害のある人を地域で見守ることについて、障害の特性を地域の人が理解することが重要です。

北東部コミュニティセンターが11月には開館予定であり、コミュニティセンターに対する地域住民のニーズを把握し、運営委員会を中心に検討していくことが重要です。

ふるさと福祉村のあり方

“ふるさと福祉村”を立ち上げた地区がありますが、どのように進めればいいのか、などの支援が必要です。

地域の新聞配達をしている人、郵便配達をしている人も“ふるさと福祉村”に加入してもらって、ひとり暮らしの高齢者の見守り活動などを行っており、地域の住民や企業なども一緒になった“ふるさと福祉村”の体制づくりが重要です。

休日の急病などについて、市の救急センターに行かなくても、地域にいる医師にみてもらえるような体制づくりの検討が必要です。

地域の福祉施設との連携

グループホームなどが地域にありますが、地域とのつながりが少なく、連携方策を考えていく必要があります。

7. 北東部ブロック

1) 基本データ

人 口	; 20,228 人
市全体に占める割合	5.0%
世帯数	; 6,377 世帯
市全体に占める割合	4.3%
平均世帯人員	; 3.17 人/世帯
市全体に対する特化	1.18
高齢化率	; 15.9%
市全体に対する特化	0.76
0歳児～4歳児の割合	; 4.4%
市全体に対する特化	0.92

図5 - 13 年齢別人口

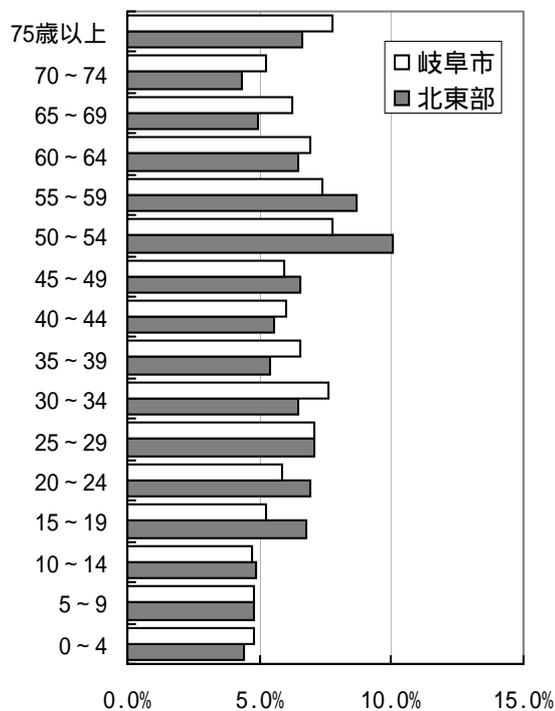
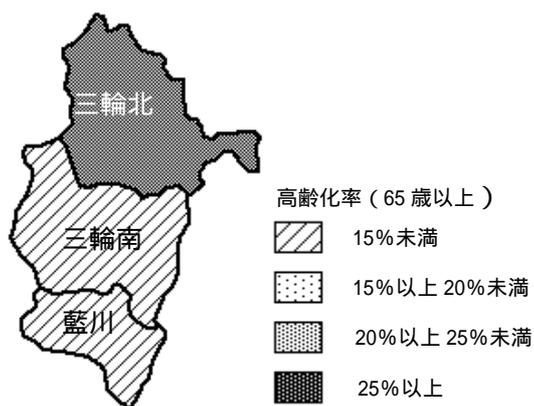


図5 - 14 地区別高齢化率

2) ブロックの特徴

本市の北東端にあり、農地の多い集落住宅地です。現在、コミュニティセンターは、北部コミュニティセンターの対象地区に含まれていますが、百ヶ峰などで、実質的に北部とは分断されていますが、本市では8箇所目となる北東部コミュニティセンターの建設が着工しました。



市全体の5.0%の人口集積があります。高齢化の状況は、15.9%と比較的低い高齢化率ですが、三輪北地区は、20%を越える高齢化率となっている反面、三輪南地区や藍川地区は15%未満の高齢化率となっています。0歳～4歳児の割合は4.4%と市平均に比べて低い比率です。

平均世帯人員は、3.17人/世帯で市平均と比べて多く、市全体の中でも最も多くなっています。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】

ふれあい・いきいきサロン
三世代交流促進事業

敬老会・新成人を祝い励ます会
高齢者福祉のつどい

【見守り活動など】

寝たきり介護者見舞

【その他】

地域健康計画づくり

・社会福祉協議会支部

ひとり暮らしおよびねたきり高齢者への慰問

三世代交流会
地域福祉研修会
福祉大会
特殊学級児との交流会

敬老会
独居高齢者福祉のつどい
ボランティア講座
親睦ゲートボール大会

・老人クラブ

【交流事業など】

市民福祉大会
健康料理大学
ふれあい・いきいきサロン

三世代交流事業
親睦ゲートボール

【人材育成など】

高齢者健康スポーツ活動指導員研修会

ヤング・オールドリーダー研修会

【見守り活動など】

友愛チーム・ふれあい活動

・青少年育成市民会議

【交流事業など】

親子ふれあい教室
新成人を祝い励ます会

三世代交流事業
学校と地域のふれあい事業

【子育て支援など】

子育て講座

親子自主グループ活動支援

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言 (P, 133と同様)

北部コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議(北部と合同開催)では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動

ボランティア活動と、地域の活動との結びつきを図る必要があります。

ボランティア活動も人手不足や活動資金不足により活動が不十分になってしまうので、それを補う仕組みづくりを検討することが必要です。

婦人会など地域活動団体の参加が減少しており、活動の活性化が必要です。

公民館の有料化による負担について、その対策を考えていく必要があります。

歩くことのできない高齢者、外出することのできない高齢者など、外出できないけど、話をしたい、参加したい気持ちのある人に対するの援助や支援を考えていく必要があります。

地域における子どもの活動(スポーツ少年団やお茶などの文化活動、ボランティア活動など)と自治会など地域活動団体の支援や連携が重要です。

地域における福祉の普及

若い人に、地域への関心を持たせるための方法を検討する必要があります。

高齢者福祉や地域福祉の考え方をどのように地域に浸透させ、市民との協働を図るのかについての方法を検討する必要があります。

障害のある人の見守り

障害のある人を地域で見守ることについて、障害の特性を地域の人が理解することが重要です。

北東部コミュニティセンターが11月には開館予定であり、コミュニティセンターに対する地域住民のニーズを把握し、運営委員会を中心に検討していくことが重要です。

ふるさと福祉村のあり方

“ふるさと福祉村”を立ち上げた地区がありますが、どのように進めればいいのか、などの支援が必要です。

地域の新聞配達をしている人、郵便配達をしている人も“ふるさと福祉村”に加入してもらって、ひとり暮らしの高齢者の見守り活動などを行っており、地域の住民や企業なども一緒になった“ふるさと福祉村”の体制づくりが重要です。

休日の急病などについて、市の救急センターに行かなくても、地域にいる医師にみてもらえるような体制づくりの検討が必要です。

地域の福祉施設との連携

グループホームなどが地域にありますが、地域とのつながりが少なく、連携方策を考えていく必要があります。

8. 南部ブロック

1) 基本データ

人 口	; 41,709 人
市全体に占める割合	10.4%
世帯数	; 15,959 世帯
市全体に占める割合	10.6%
平均世帯人員	; 2.61 人/世帯
市全体に対する特化	0.98
高齢化率	; 20.8%
市全体に対する特化	1.07
0 歳児 ~ 4 歳児の割合	; 4.3%
市全体に対する特化	0.90

図 5 - 15 年齢別人口

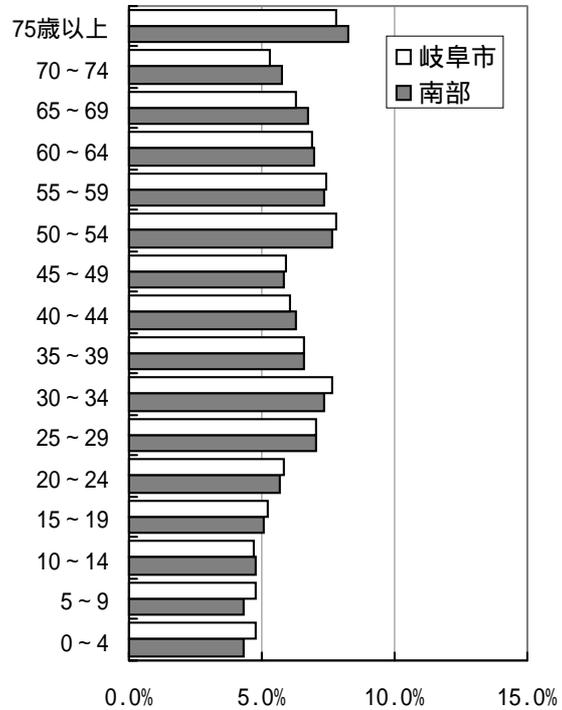
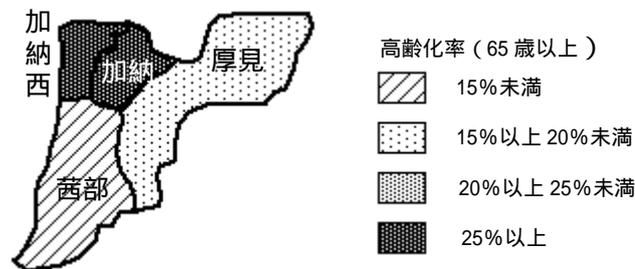


図 5 - 16 地区別高齢化率



2) ブロックの特徴

本市の中心部の南にあり、旧中山道が通るなど歴史的な町並みの残る地区がある反面、南部はスプロール的に市街化された比較的新しい市街地です。

市全体の 10.4% の人口集積があります。高齢化の状況は、20.8% と比較的高く、特に加納、加納西は 25% を上回る高齢化率です。しかし、茜部地区は、15% を下回る高齢化率です。0 歳 ~ 4 歳児の割合は 4.3% と市平均に比べて低い比率ですが、茜部地区は、6.2% と高い比率となっており、比較若い世代の世帯が多くなっています。

平均世帯人員は、2.61 人 / 世帯で市平均と同程度です。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】

敬老会・新成人を祝い励ます会
高齢者福祉体育大会

三世代交流促進事業
ウォーキング活動

【その他】

自主防災リーダー研修会

・社会福祉協議会支部

役員研修会
献血協力

ふれあい・いきいきサロン
親子ふれあい教室

・老人クラブ

【交流事業など】

校区福祉大会

三世代交流事業

【人材育成など】

ヤング・オールドリーダー研修会
高齢者健康スポーツ活動促進指導員養成講座

【見守り活動など】

友愛チーム・ふれあい活動

・青少年育成市民会議

【交流事業など】

親子ふれあい教室
新成人を祝い励ます会

三世代交流事業

【子育て支援など】

子育て講座
親子自主グループ活動支援

子どもフェスティバル

【その他】

夢づくりふれあい事業

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

南部コミュニティセンターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動

単身者向けアパートの住民など、地域から孤立化しやすい人を地域活動団体へ加入促進することについて検討する必要があります。

親子ふれあい教室は、保育所の園庭開放やそこでの口コミなどによって、参加者は増えてきており、口コミなどによる普及を活用していくことが重要です。

親子ふれあい教室のOB会が自主的に作られており、一つのふれあいや交流の場の提供から自主活動へとつなげていくことが重要です。

福祉サービスのフォロー

緊急通報装置などの設置で、緊急時に使いにくい場所に設置している場合があり、サービスの提供のみでなく、そのフォローが重要です。

地区のひとり暮らし高齢者を把握しておくことが重要です。個人情報の守秘義務(プライバシー)との兼ね合いがあり、難しい面があります。

健康について、気軽に相談に行ける場所を設けることが必要です。

地域での子育て

“地域のお父さん”が地域にいなくなっており、子どもに対しての声かけを広めていくことが必要です。

地域において子どもが少なくなっており、子育て世代の世帯が住み続けたい魅力ある地域や魅力ある自治を考えていく必要があります。

移動支援

高齢者が気軽に外出できるように、移動の手段を確保することが必要です。

9. 中央部ブロック

1) 基本データ

人 口	; 58,570 人
市全体に占める割合	14.6%
世帯数	; 24,446 世帯
市全体に占める割合	16.3%
平均世帯人員	; 2.40 人/世帯
市全体に対する特化	0.89
高齢化率	; 27.9%
市全体に対する特化	1.44
0歳児～4歳児の割合	; 3.2%
市全体に対する特化	0.66

図5 - 17 年齢別人口

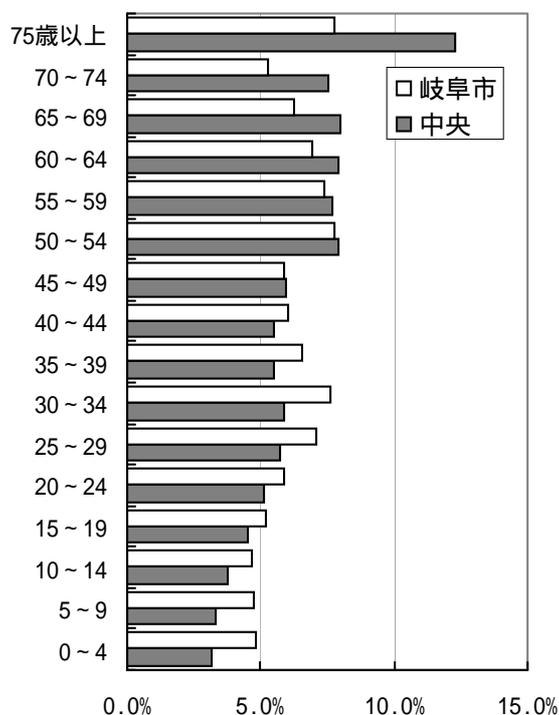
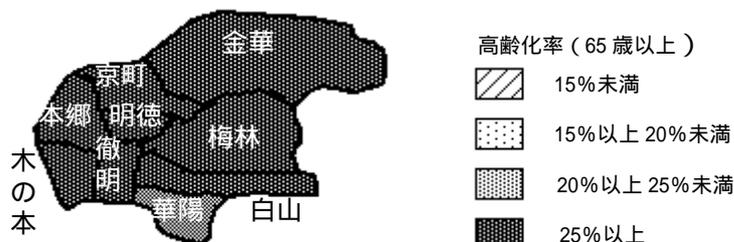


図5 - 18 地区別高齢化率



2) ブロックの特徴

本市の中心部であり、旧来からの中心商業地であり、本市の中核機能を有する行政施設や公共公益施設の集積された地域です。

市全体の14.6%の人口集積がありますが、高齢化の著しい地域でもあります。高齢化の状況は、25%を上回り、4人に1人以上が高齢者である特徴があります。0歳～4歳児の割合は低く、新婚世帯や子育てファミリー世帯が非常に少ない地域となっています。

平均世帯人員は、市平均に比べて、少ない人員であり、若年世代の流出により、高齢者のひとり暮らしや高齢者の夫婦のみ世帯が非常に多いといえます。

3) 地域活動の状況

この地域における地域活動団体の主な活動を以下に整理します。

・自治会

【交流事業など】

ふれあい・いきいきサロン研修会	校区市民体育祭
敬老会・新成人を祝い励ます会	三世代交流促進事業
社会を明るくする運動	

【見守り活動など】

見守りチーム研修会開催	独居老人・高齢者と語る会
-------------	--------------

【人権擁護など】

人権啓発フェスティバル	地域人権同和教育
-------------	----------

【その他】

自主防災訓練	地域安全パトロール・地域安全モニター
合同在宅介護研修会	

・社会福祉協議会支部

ひとり暮らし高齢者のつどい	幼児と高齢者ふれあい事業
高齢者介護予防教室	ふれあい・いきいきサロン
福祉施設慰問	母子家庭激励事業
健康セミナー	見守りチーム研修会
ひとり暮らしおよびねたきり高齢者への年末慰問	
ひとり暮らしおよびねたきり高齢者等の実態把握（見守りチーム）	
ひとり親家庭小・中学卒業生激励（図書券）	
ひとり暮らし高齢者（73歳以上）および身体障害者（1級・2級）への慰問	
三世代ふれあいカーニバル	

・老人クラブ

【交流事業など】

ふれあい・いきいきサロン	校区福祉大会
校区ふれあいまつり	三世代交流促進事業
保育園との交流（運動会、芋苗植付け、七夕まつりなど）	
正月会員との語り合い、婦人部との語り合い	

【人材育成など】

高齢者健康スポーツ活動促進指導員養成講座	青少年育成講習
スポーツ指導者研修会	

【その他】

独居老人、高齢者の生きがい調査

・青少年育成市民会議

【交流事業など】

親子ふれあい教室
三世代交流事業

校区福祉大会
新成人との交流会

【子育て支援など】

こどもの土日の受け皿について
親子自主グループ活動支援

子育てマップ

【その他】

家庭の日推進大会
青少年問題シンポジウム

校区内社会環境調査

4) 地域福祉コミュニティ会議からの提言

市民福祉活動センターで開催した地域福祉コミュニティ会議では、特に次のような点で課題意識があり、施策の充実が望まれています。

地域活動団体

低所得世帯などに対しては地域活動団体への加入費も負担が重く、加入費の問題で加入できないことのないような支援が必要です。

老人クラブなど地域活動団体の活動への若い世代が参画できる仕組みづくりが必要です。

高齢化が著しい地域ですが、老人クラブへの参加者が少なく、会の存続が困難になっています。

地域活動

福祉委員について、民生委員・児童委員との違いを含め、どんな役割や仕事を担っていくのかを明確にする必要があります。

民生委員・児童委員一人ひとりの担当区域について、自分の住んでいる町内以外の情報も収集したり、他の担当区域の民生委員・児童委員と協力するなど、活動を見直していく必要があります。

自治会長と民生委員・児童委員が互いに、助けが必要な人について情報を交換するなど、地域全体での情報の共有化を図る必要があります。

町内会、自治会などでは、ひとり暮らし高齢者の所在について把握していく必要があります。

ふれあい・いきいきサロンなどにおいて参加者が固定化しており、口コミなどによる井戸端会議的な集いを増やしていく必要があります。

地区としてのまとまりも少ない地域もあり、もっと小地域単位で福祉を考える必要があります。

NPO などだけでなく、自治会など地域活動団体との連携の中で、地域福祉を考えていく必要があります。

地域活動の場所

コミュニティセンターがない地域であり、場所を確保する必要があります。

自治公民館等、集会所が少ない地域であり、空店舗の活用、お寺の活用などが考えられるが、家賃や飲食の問題があります。（民家を提供してもらって、NPO 活動を行っている団体もある。）